

特別
座談会

女性社員座談会

Round Table
Talks

次世代が働きやすい 職場環境づくり

ESG経営の一環として「多様な人財の育成と活躍推進」に取り組む東亜建設工業では、女性総合職の採用を広げるとともに、女性が働き続けやすい環境整備に注力しています。こうした取組みについて、女性社員たちはどのように感じているのか、土木・建築部長も交えて、変わり続ける東亜建設工業の職場環境について語り合いました。

激変する建設業界、しかし、ゴールはまだ先にある

— 技術職をはじめとした女性総合職が増えるにつれて、現場や社内はどのように変わってきたのでしょうか。

御沓 私が入社した30数年前は、建設会社と言えば典型的な男性社会。女性の技術職は一人もいませんでした。時代の変化の中で、当社でも2005年から女性技術職の新卒採用を開始し、現在では土木分野で26名、建築分野で16名、さらに女性総合職という意味では、事務



建築事業本部
建築部長
北林勇武

横浜支店
長浦岸壁作業所
阿部花香

東京支店
多摩川護岸作業所
監理技術者
高橋ひろ子

系社員10名を加えた52名が第一線で活躍しています。会社の重要な戦力となりつつある彼女たちに、働きやすく、いつまでも働き続けられる環境を用意するのは我々の責任であり、トイレや洗面所、事務所環境の整備はもちろん、休暇取得や残業抑制、産休・育休制度の活用促進などを積極的に進めています。

北林 私も入社した頃は、今のように女性の現場監督と一緒に施工管理ができるとは夢にも思っていませんでした。この30数年間の建設業界の変化には驚くばかりです。しかし、こうした変化は決して自然に起こったわけではありません。かつて3Kと言われていた時代から、建設業界に違和感をもっていた社員は、私も含めて多かったと思います。そうした思いが少しずつ会社を変え、現在のように多くの女性が活躍する状況につながったように思います。その意味で、私たちはまだまだ成長の途上です。現状に満足せずに改善させる意識を持ち続けることで、20年後、30年後、いまの若い人たちも劇的に変化した職場環境に驚く日がやって来ることでしょう。

職場も、働き方も、意識が変わる

— 実際に、女性総合職のみなさんは、会社の変化についてどのように感じているのでしょうか？

高橋 12年前に入社し、女性で最初の施工管理技術者として仕事をしてきましたが、当時に比べれば作業所もキレイになって、分煙も徹底されて快適に働けるようになりました。最近はJVを組む他社さんの事務所でも若い女性がいるようになって、コミュニケーションも取りやすくなったと思います。業務面では、ICTの導入で大きな図面を持ち出さなくてもスマートフォンやタブレットで現場の施工管理が行えるようになり、効率的に働けるようになったと感じています。

阿部 この数年で、職場の雰囲気がいだいぶ変わりましたよね。制度はあってもなかなか申請しにくかった休暇も取りやすくなって、残業も減りました。以前は、残っている人がいると先に帰りにくい雰囲気もありましたが、今は「どうやったら早く帰れるか」をみんなで考えて、テキパキ働き、早めに帰るようになりました。

島倉 私は一昨年に1年間の産休・育休を取らせてもらいました。会社からは、現場ではなく支店で技術系のデスクワークもできると言われたのですが、自分のやったことが目の前で形になっていく達成感は現場でしか

得られないので、いまも子育てをしながら時短勤務で施工管理の仕事をしています。とにかく、限られた時間内で仕事を終わらせなくてはならないので、仕事への意識も変わりましたね。1日の段取りをよく考えて行動するようになり、結果的に以前より効率が上がったと思います。いまは子どもの存在が仕事をする原動力になっています。

阿部 私も平面図だったものが施工して立体になっていくところにやりがいを感じます。自分が担当した現場をあとからグループマップ(航空写真)で観るのも面白いです。

淋代 私は事務系の総合職なので、入社当時から女性だからといって働きにくいと感じることはなく、むしろテレワークが始まるなど、働きやすさがどんどん高まっているように思います。以前からペーパーレス化とワークフローの電子化を進めていたので、自宅でも会社に居るのと変わらずに仕事ができるようになりました。これなら子どもがいても働き続けられそうだなと感じています。

女性が働きやすい職場は、男性も働きやすい

— 女性がもっと活躍できるように、こんな制度があったらいいなと思うものはありますか？

高橋 何かあっても相談すれば改善してもらえるので、とくに不満はないかもしれません。自由にやらせてもらっているの(笑)。あと、女性総合職全員が参加している「TOAけんせつ小町ワーキンググループ」が、みんなの意見や要望の受け皿になって改善を進めてきたので、その成果も大きいかもしれません。女性専用の作業着もできだし、ヘルメットも小さいものが使えるようになったし…

島倉 そう言えば最近、落下制止器具がフルハーネスになりましたけど、耐荷重100キロの重いものしかなくて、女性用に軽いのが欲しいです。次はぜひ、これを改善しましょう。

阿部 どんどん意見が言える雰囲気なのもいいですね。ものが言いやすい職場は風通しが良いというか、働きやすいと感じます。これは男性も同じだと思いますけど。

高橋 「TOAけんせつ小町ワーキンググループ」でも、最近は女性だけでなく、男女共に働きやすくなるための意見が多いですね。トイレとか作業所が快適になるのは男性社員も嬉しいことだと思います。

淋代 個人的には、総合職の地域限定制度をぜひ作って欲しいと思っています。男女問わず、それぞれ

のライフスタイルやステージに合わせた働き方ができるようにになるといいですね。

業界の常識を超えて、新しい挑戦をしよう

— 色々な意見が出ましたが、土木・建築部長としての思いと、今後の展望を聞かせてください。

御沓 建設業界は、この数年、意識改革が急速に進んで、働き方も日々変わっていくような状況です。そんな中で、女性社員が現場に入ってきて、戦力になることで所長も含めた男性社員の意識が変わり、良い効果を生んでいると思います。また先日、出産で建設会社を退職された女性技術者を当社で中途採用したのですが、「また施工管理の仕事がしたい」と当社を選ばれて、資格をたくさん持つ優秀な人なのですが、そういう人材が再び現場に復帰するのはとても良いことだと感じました。こうした多様な働き方に応える意味でも、先ほどの地域限定総合職も検討課題の一つだと思います。

北林 現場で働きたい女性が増えることは、職場環境を変えてくれる良いきっかけになっていると思います。働きやすい環境づくりは、制度も必要ですが、やはりみんなが協力してできることです。これからは男性も育休を取る時代であり、介護で時短勤務も必要になることもあるでしょう。そういう中で、今までの習慣にとらわれず、一歩踏み込んで、現場でもリモートワークを試してみたり、新しいことにチャレンジしていきたいですね。東亜をもっと働き続けやすい会社にするためにみんなで頑張らしましょう。



東日本建築支店
防衛横浜作業所
島倉海

東日本建築支店
総務部
淋代万梨子

土木事業本部
土木部長
御沓英剛